

【がんばる市内企業の事業活動や事業展開を紹介します】

株式会社 大喜水質管理センター

～感謝の心をもって 良い仕事をし 幸せに働く～



◇所在地 大洲市新谷
◇電話 25-2012

がんばる大洲企業

弊社は、昭和37年に創業し、現在は22人の従業員が、24時間体制でお客様の要望にお応えしています。弊社の主な業務は、浄化槽の維持管理業務、産業廃棄物汚泥などの収集・運搬・処理を行う業務です。今年度からは、これまで以上に環境保全に努めていきたい、少しでもお客様の役に立ちたいという思いから、バイオ洗剤などのEC-O商品を取り扱うようになりました。販路拡大にはさまざまな課題があります。地道な営業活動を通して、徐々に浸透させていきたいと思っています。また、浄化槽の点検時に



は、無料で使用済みの天ぷら油を回収し、内子町のNPO法人やオオズキャンドルナイトなどのイベントへ提供しています。弊社に限らず、全ての会社は、お客様に支えられて成り立っています。これからの時代、日頃の感謝の気持ちを、いかに顧客満足度の向上に転化できるかが、重要になってくると思います。

お客様からいただく「ありがとう」は、弊社にとって何物にも替え難い原動力であり、仕事へのやりがいにもつながっています。

少子高齢化が問題になる中、今後、弊社ではお墓参り・掃除の代行などを行う、新たな分野にも挑戦したいと考えています。これからの『感謝の心をもって、良い仕事をし、幸せに働く』をモットーに、より多くの「ありがとう」を目指し頑張っていきます。

文化財

丸山大師堂のスギ
大洲市指定天然記念物
丸山大師堂

肱川町の丸山公園中腹に位置する大師堂の境内には、樹高約23m、根回り4.7m、目通り3.5mで、樹齢約400年と推定されるスギがあります。

地上約3.5mのところまで3つに分岐した幹それぞれが、同じように成長したため、主幹は本来のスギの形のように高く伸びてはいませんが、東西21.5m、南北15.5mに力強く伸びた枝により、堂々とした巨樹らしい風格を見せています。

本樹のある大師堂は、江戸時代には地藏堂と呼ばれていましたが、弘法大師の石像を祭った時から、大師堂と呼ばれるようになったと伝えられています。

(昭和51年11月26日指定)



野鳥

コミミズク (小耳木兔)
フクロウ目フクロウ科
大きさ38cm 翼開長99cm



冬の草原やヨシ原に現れる、フクロウの仲間です。ぬいぐるみのような愛らしい姿で人気がありますが、目が人間のように正面にあるのは、左右の目で獲物との距離を計って狩りをするためです。また、顔の羽毛はネズミの動くかすかな音を聞き分ける、パラボラアンテナの役目をします。夜行性ですが、時折昼間でも飛びまわることがあります。以前は、東大洲の穀倉地帯でも観察されていましたが、大きな道路や夜間の街灯の明かりが影響したのか、最近は観察されていません。節電とよく言われますが、夜は早くに活動を切り上げて、日の出とともに行動を開始する生活を身につければ、人類はもとより他の生き物たちにも、相当な恩恵があるような気がします。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④



大洲市出身のタカラジェンヌ

あやかぜ
彩風 咲奈 さん

大洲のみなさん、お元気ですか。宝塚歌劇団雪組の彩風咲奈です。

私が宝塚歌劇団に憧れて大洲の地を離れてから、早いもので7年が経ちます。

初めて宝塚に訪れた時、山がたくさんあり、川が流れている風景を見て、どことなく大洲と似た印象を受けました。

今は、さまざまなレッスンや公演など、とても充実した日々を送っています。大切なふるさと・大洲に、時々帰りたいなと思うことがあります。

今回は、大洲で過ごした思い出について、少し触れてみたいと思います。

まずは富士山

小中学生の時、よく遠足などで出かけました。富士山は、中学校の裏にあつて、昔から遊び場として慣れ親しんだ場所でした。富士山は身近な場所の一つで、家族や友達と過ごした思い出が、たくさん詰まった場所でもあります。



次にいもたき

大洲を離れるまで、いもたきは全国どこにでもあるものだと信じ込んでいました。しかし、いもたきのことを宝塚の友達に話すと……全く通じませんでした。自分が当たり前のように食べていたものが、実は他では珍しいものなんだと気づき、自分でも思わず笑っ

てしまいました。

宝塚にいと、いもたきを食べる機会がないので、帰省した時には、母に作ってもらおうと思つています。

ちなみに、私はじゃこカツも大好物です。

脇川と言えば、夏の花火大会

毎年、大洲で行われるたくさんの花火大会を楽しみにしてました。脇川に映る色とりどりの花火が、とても幻想的な光景だったことを覚えています。

大洲は、うかいも有名なところですが、私はうかいを経験したことがありません。機会があれば、花火を見ながら、ゆつくりと鵜飼いに船に乗ってみたいです。



心に残る思い出の場所

私は、脇川橋から臥龍山荘まで続く、脇川の岸辺が好きでした。風情ある町並みと、壮大な脇川の景色がとてもきれいで、今でもお気に入りの場所の一つです。

また、ポコペン横丁など地元で行われるイベントも大好きで、浪漫祭では人力車に乗らせてもらったことを覚えています。このようなイベントが、今も昔と変わらず続いていることが、本当にうれいす。



『大洲のみなさんへ一言』

私は、大洲での思い出から元気をもらい、毎日頑張つてレッスンに励んでいます。みなさんからの温かい応援に、私はとても勇気づけられています。

これからも一生懸命頑張ります。応援してくださいね。

アルミ缶回収で肱東中学校に感謝状

長年にわたりアルミ缶回収活動を行い、特に顕著な取り組みがあったとして、肱東中学校が平成24年度アルミ缶回収優秀校に選ばれ、アルミ缶リサイクル協会(東京都)から感謝状を贈呈されました。

アルミ缶リサイクル協会は、資源、エネルギーの有効活用を図り、ポイ捨てなどによる空き缶の公害防止、自然環境の保護などに寄与することを目的に活動しています。

アルミ缶回収を通じて環境学習の支援を行うため、毎年、アルミ缶回収優秀校の表彰を実施しています。



私たちが持続的に発展可能な社会を作っていくためには、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできるだけ低減する循環型社会の形成を推進していく必要があります。その取り組みの一つが、リサイクルです。

肱東中学校は、平成8年から委員会活動の一環として、毎週水曜日に生徒たちがアルミ缶を持ち寄り、リサイクルに取り組んでいます。年間約100キログラムを回収し、リサイクルで得た収入を、地域の福祉施設に寄付しています。

継続的な活動の実績が評価され、今回の表彰となりました。

男女共同参画社会づくりセミナーを開催

大洲市女性団体連絡協議会と、おおず女性塾の共催による男女共同参画社会づくりセミナーが、1月20日(日)、大洲市総合福祉センターで開催されました。

開会で、大洲市女性団体連絡協議会の三好康子会長は「私たちは日頃から男女共同参画に対する、さまざまな取り組みを実践しています。また、おおず女性塾についても、ふるさと『おおず』の再発見、家庭、地域における男女共同参画を推進するための講座を開催し、活動しています。本日のセミナーが、家庭で、職場で、そして地域で、男女共同参画のきっかけになることを祈念しています」とあいさつを述べられました。



セミナーでは、前尼崎市長で数々の職歴を持つ白井文(あや)先生による「男女共同参画と私たちの未来」意思決定の場に女性を」と題した講演が行われました。

講演では、自らが経験した阪神淡路大震災で、女性の目線から見た避難所対策、女性の社会進出に必要な企業側の意識改革、市長に就任した経緯などを話されました。

最後には、参加した約160人の観客に「私には無理と決めつけないで、私から一步、私から前にと、何事にもチャレンジしてほしい」とメッセージを贈りました。

男女共同参画社会づくりセミナーは、平成5年に第1回目が開催され、平成7年から毎年開催されています。

薄味で、心も体も健康に

テーマ…高血圧予防を中心とした、生活習慣病予防食

〔平成24年度 健康食フェア〕

地域の人たちの健康を考え、「食」を通じた健康づくりの普及を目的に、大洲市食生活改善推進協議会主催による「健康食フェア」が2月1日(金)、大洲市総合福祉センターで開催されました。

各地区のリーダーは、保健センター主催の生活習慣病を予防するための講習会(今年度のテーマ・高血圧予防食)を受講し、市内の19支部へ伝達講習を行ってきました。

フェア会場には、各支部がテーマに沿って用意した19品目の健康食が、所狭しと並べられていました。



開会に当たり、当協議会の富永裕代会長は「各支部のヘルスメイトが用意した数々の料理を、ゆっくり堪能し、元気になって帰ってください」と述べられました。

来賓として訪れた清水市長は、「健康であるためには、食生活の見直しや体を動かすことが大切です。また、おいしいと思うことは、生活習慣病の予防にもつながると思います」と話しました。

その後、約280人の参加者は、栄養バランスのとれた料理を食べながら、会話を楽しんでいました。



平成24年度 肱川洪水危機管理演習

〔災害に備えて万全の体制を〕

平成24年度肱川洪水危機管理演習が2月5日(火)、大洲市総合福祉センターで実施されました。

国土交通省、愛媛県、大洲市、大洲地区広域消防事務組合など8機関が参加したこの演習は、直轄河川に関わる地方公共団体を対象に、大規模洪水災害時における防災担当者の危機管理への対処能力を向上させることを目的に実施されたものです。

実施に当たり清水市長は「河川整備と併せ、今回の情報伝達訓練などにより経験したことが、洪水被害の軽減につながる。生命、財産を守るためには、的確な判断が求められる。今回の訓練を、今後の防災に役立てていきたい」と述べました。



約120人が参加したこの演習は、災害対策本部の運営について、効果的な図上演習であるロールプレイング方式で実施されました。肱川流域で大規模水害の発生を想定した状況を作り出し、図上で災害を模擬体験するこの演習では、大洲市長と大洲河川国道事務所長とのホットラインの確認や、関係機関への情報伝達などに取り組みました。

また、防災担当者らが本番さながらの様相で、迅速な行動、決断、指示、報告の一連の動きについて訓練を行っていました。

国、愛媛県、大洲市では、今後も危機管理についての連携強化に努めていくことにしています。

